

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

＜学校教育自己診断の保護者評価「学校に対する意識」R8まで80%以上を維持（R4:80%、R5:81%、R6:81%）＞

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

（1）児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援を含む）

- ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
- イ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
- ウ 自立活動を推進する
- エ 効果的な指導方法を検討する
- オ シラバスを活用する
- カ 小中学部からのキャリア教育を充実させる

（2）時代にマッチした教育理論を構築する

- ア カリキュラム・マネジメントを充実させる
- イ 効果的な指導支援体制を研究・推進する
- ウ ICTを活用した取組みを推進する
- エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- オ 人権感覚を育む
- カ いじめの未然防止に努める
- キ 防災・防犯に努める

（3）次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ 他学部との取組みを知る機会を作る

2 保護者・地域・関係機関との連携

＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均) R8まで80%以上を維持（R4:82%、R5:79%、R6:79%）＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

（1）保護者との連携を深める

- ア 保護者が悩みを相談できる機会を作る
- イ 通学バスの位置情報を提供する

（2）地域・関係機関との交流・連携を推進する

- ア きれいな地域づくりに貢献する
- イ 学校間交流を実施する
- ウ 居住地校交流を実施する
- エ 民間委託された給食室と連携を図る

（3）わかりやすい最新の情報発信・収集を行う

- ア デジタル化を推進する

3 働き方改革

＜教職員の心身の健康のため、「府立学校ストレスチェック総合健康リスク」について、全国平均ポイントを下回る＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

（1）同僚性の高い職場づくりを行う

- ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
- イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う

（2）教職員が働きやすい環境整備

- ア 教材バンクの活用を促進する
- イ 分掌長・主事等の業務を軽減する
- ウ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す
- エ 個人情報処理業務を削減する
- オ 会議の円滑化・充実を図る

（3）業務推進体制を整理する

- ア 首席を各PTの要として学校経営の推進を図る
- イ 校務分掌体制を整理する

4 地域支援 ＜地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施100%＞

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

（1）地域との連携強化を図る

- ア 校内外の支援コーディネーターの育成を図る
- イ 高等学校への支援を進める

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和　6　年　12　月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1　結果概要 ＜保護者アンケート＞ ・回答率は、昨年度（51.3％）より、11.8％増。 ・昨年度から、フォーム作成ツールを用いてアンケートを実施したところ、回答率がかなり下がったため、今年度は当初設定した回答期限を延長すると共に、リンクを掲載した紙媒体の案内を配付したことにより、回答率の向上につながったと考える ・各項目の肯定的評価は、昨年度より微減したものの、全体平均は昨年度（77.4％）より2％増 ＜教職員アンケート＞ ・回答率：　81.7％（令和5年度）→100％（令和6年度） ・名簿を回覧して回答済みチェックを行ったことで、100％達成 ・ほとんどの項目で肯定的評価が増加。全体平均は昨年度（76％）より9.5％増加 2　結果詳細 ＜保護者アンケート＞ 【特に高評価な項目】 ①「授業参観や学校行事で学校の様子を知ることができる」（90.7％） ②「教職員は日常の教育活動で子どもの人権を十分に尊重している」（87.6％） ③「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」（86.2％） 【課題の見られる項目】 ④「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」（52.4％） ⑤「学校は子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」（68.4％） ＜教職員アンケート＞ 【特に高評価な項目】 ⑥「カウンセリングマインドを取り入れた生活指導」（91.7％） ⑦「進路選択に応じた指導」（92.3％） ⑧「人権尊重の姿勢に基づく指導」（88.8％） 【課題の見られる項目】 ⑨「教育活動全般の評価と次年度計画への反映」（69.2％） ⑩「保護者・地域への情報周知」（73.4％） 3　課題の改善及び相関を基にした考察 ④学校のいじめ対応についての理解 肯定的評価が52.4％と低く、「わからない」が43.6％と非常に高い割合を占める。教職員アンケートでは、いじめ対応への肯定的評価が76.9％と高く、対応体制が整っていると認識があるが、保護者との間に大きな認識のギャップが見られる。 いじめ事案が発生していない場合、保護者が学校の対応方針を把握しづらい可能性がある。本校ではいじめの未然防止を今年度の学校経営計画の重点目標に位置付け、「学校いじめ防止基本方針」の年度ごとの見直し、「いじめに関するアンケート」の毎学期実施など、学校組織として子どもたちが安心して学校に通えるよう、いじめへの対応を行っている。保護者の方に安心していただけるよう、今後も情報を発信していく。 ⑤進路や職業選択についての適切な指導 「子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」の肯定的評価が68.4％と低めである。一方、教職員アンケートでは進路指導について肯定的評価　92.3％と高い結果を示しており、認識のギャップが見られる。 進路を具体的に考えていく高等部の保護者からの回答では肯定的評価が85.4％である。「わからない」の回答については、小学部21.3％、中学部が17.4％、高等部が8.3％となっており、特に小学部段階で、進路や職業選択についての指導へのイメージがもちにくいことがわかる。 今年度、高等部との職業に関する授業交流（職業の授業見学、実習体験、授業交流）を小中学部で実施。中学部では校内実習体験を実施。小学部段階からの進路指導を進めているところである。今後も本校での進路にかかわる取り組みについて、保護者の方に情報発信を行っていく。 ⑨教育活動評価と次年度への反映 教職員が評価結果を十分に把握できていない可能性がある。学校経営計画の評価について、評価内容とその反映計画を、教職員にさらにわかりやすく共有する必要がある。教職員が計画の成果を実感できるよう、振り返りの機会を増やし、小さな成果も共有すること全体で達成感を共有できる仕組みを構築していく。 ⑩保護者・地域への情報周知 保護者の回答では、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」項目で82.7％と高評価となっているが、教職員の評価では少し低い73.4％となっている。自由記述回答中に、「保護者の間でデジタルデバイドが感じられる時がある」という意見があった。本校では情報伝達についてデジタル化を進めているが、デジタル環境に関する不安や要望を聞き取り、必要に応じて対応策を講じていくことも求められる。 また、「保護者への情報伝達が遅いと感じる。」という意見が自由記述回答にあった。必要な情報について、タイムリーに伝えていけるよう、努めていきたい。	【第1回　7月4日】 ●50周年記念事業について ・学校ホームページにアクセスすると、記念ソングが流れるようになっている。50周年を盛り上げようしていることが感慨深い。 ・子どもたちの取り組みはキャリア発達の視点で素敵だと感じる。 教職員も楽しんでいる様子が分かり、同僚性やチームで取り組んでいく等、次につながる。ダンスを基軸として系統性をもって教員が話をする機会も増え、良いものだと思う。 ●教科書採択について ・☆本というものがあるということを初めて知った。地域の学校でも使ってみたいと感じる。 ・系統性を重んじていくということで、5月に全校教科が開かれた。12年間の一貫教育をいかにすすめていくかということを考えていけるのは、支援学校の強みでもある。 子どもの実態に応じて支援内容や教材教具を工夫されると思うが、教科書でさらに系統性がある授業づくりをすすめていってもらえたら。 ●学校経営計画について ・学校経営計画は教員が読むのがしんどいという印象だった。意見を集めてキャッチフレーズを募集するのは、面白いと感じている。 ・中学部の職場体験は今後社会情勢も変わっていて選択肢も広がる中、どうなりたいかなどを考える機会を持ってないのかなと思う。一方で、職場体験実習は行っているのか？ また、卒業生や実際のさまざまな仕事の話を聞く機会を持ちたい。 ・園でも働き方改革の観点から会議の持ち方や諸書類の書き方等を見直ししているが、成果につながるまで引き続き取り組む必要があると考えている。園での取組の参加にもさせて頂いているので、学校経営計画を元に今後も進めていってほしい。 ・アンケートのペーパーレス化については、保護者からの回答を一定数求めなければその有効性が高まらないので回答率を高めることが課題となる。 ・働き方改革では、本校でも取り組んでいるが、教員のよりよいものを求めたい気持ちが先行し道半ばである。 ・最近の傾向として地元の支援学級を選ぶ児童が年々増えている児童の課題も多様になってきているので教職員の専門性も求められている。支援学校の地域支援において、さらに相談ができる機会が増えるということなので、ありがたいと感じている。 【第2回　11月21日】 ●教科書採択について ・現在、小学部に在籍しているが、高等部になると、教科書が増える。勉強が増えることを実感した。 ・様々なプリントやデジタル機器の活用等で、更に工夫されている。3学期の開催時に教科書も含め、各学部の学習や活動の様子もまとめて聞かせてもらえたら。 ●校内見学について ・授業の見学は、参考になった。中学部、高等部での実習は興味深かった。廊下の清掃では、できる人ができることをされているのが印象的だった。委員として関わっているが、実習受け入れについて、希望がいれば案内いただけたら。 ・高2の校内実習の様子を見たが、子どもたちだけで言葉を掛け合い、確認しながら丁寧に行っていた。いつもあんな様子でしておられるのかと思った。中学部の縦割り授業、社会、体育、特活の縦割りは科目が固定なのか。行ったことのない校舎にも行くことができて、良かった。 ・個別最適な学びが大切だと言われている中、児童生徒一人ひとりが大事にされていると感じて感動した。卒業生に会い、いきいきとしている姿を見て、元気に頑張っている様子が見られて嬉しく思った。 ・小学部では、丁寧に学習をされている。掲示も愛情がこもっており、学校全体が美術館のような素敵な空間になっている。中学部の「ありがとうの木」は、一人ひとりの心とからだ揺れ動く難しい時期に、褒めて励ましてまた頑張ろうという気持ちを育んでいると感じる。高等部の校内実習は、レポートリーが増えていて感心した。清掃も丁寧。進路に向けて頑張っていることを感じた。50周年の節目の年。更に発展していくよう願っている。 【第3回　2月13日】 ●学校教育自己診断について ・進路や職業選択項目に、保護者と教職員で乖離。 小、中の保護者にとっては想像がしにくいので、評価が低いと捉えるのは厳しいのでは。すぐに進路選択が迫る高等部の保護者から8割超えの評価をもらっていることはよいのでは。 ・小学部の保護者として、進路に関してはわからない。回答しやすい文言に学部ごとに変えてはどうか。 いじめに対しても以前から【わからない】の回答が多い。子供に聞いてもわからない。 ・自分で訴えることが難しい児童・生徒もいる。答えやすい質問内容、文言にしてほしいという要望。 ・自己診断の項目については、小の保護者については、進路についてわからないことが多い。情報公開をしていくことで、進路について学習していることがわかりやすい。 ・グーグルの利用等、工夫されているところは評価できる。教職員回答率100パーセントは素晴らしい。 ・学校教育診断は、よりよくしていくためのツール。内容が分かりやすく答えやすくするのは良い。限界があるとは思うが、工夫は必要。 ●学校経営計画について ・ストレスチェックや超勤状況もあって、働き方改革については、いい取り組みだと思う。教育の質とのバランスを自分自身が見直していかないといけない。 ・中学部の取り組みで外部講師として行っていた。例年通りの見直しという観点から今後取り組みを継続するにあたって、見直していきたい。 ・体を動かす大切さはわかる。教室が不足している現状。どう確保しているのか。 ・ボランティアはどのような動きをしているのか ・PECSの活用があるが、卒業後の進路先で使用されずコミュニケーションが適切にとれず子どもが困ることも。 ・学校経営計画がおもしろく、見やすく分かりやすい。教職員が作成に携わっていることから、同僚性の高さをうかがえる。 ・高等部ではキャリア教育について力を入れているのがわかる。小学部という土台も含めて、子供たちの自己実現ができるよう、学部連携して励んでいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R 6 年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症、 ^ハ トラムの特性に応じた指導支援を含む) ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜行動支援 PT＞ イ 自立活動を推進する ＜自立活動主任＞ ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する ＜小中学部＞ エ 効果的な指導方法を検討する ＜小中学部 各首席＞	(1) ア <u>コミュニケーションでみんな繋がろう！</u> ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める イ <u>一人ひとりの良さを伸ばす自立活動！</u> ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する ウ <u>見留める！ 認める！</u> ・児童生徒の活動をよく見て言語化し、フィードバックすることで意欲の向上に努める エ <u>学ばせ方改革！授業力パワーアップ！</u> ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する	(1) ア ・学んだ教員の報告会実施 年 1 回 イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察 ウ ・校長の授業観察時に確認 年 1 回以上 エ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・校長の授業観察時に確認する。 オ ・全校教科会の設定 年 2 回 ・システム運用状況の確認 年 2 回 カ ・児童生徒同士の学部間交流を行う 小中学部 年 1 回 小学部 全他学年との交流 年 1 回 中学部 学年間の授業見学 年 1 回 ・校内実習・就労に向けた取組み 中学部 年 1 回以上 ・高等部との職業に関する授業交流 小中学部 年 1 回	・PECS ワークショップ開催(8 月) 北摂杉の子会実践報告会(12 月) 事業所見学会実施(R 7 年 1 月) PECS 実践報告会実施(3 月) (○) ・全体研修で基礎的な内容、実践事例を研修内容として求める声が多く、夏季研修に反映した。 ・各学年で、定期的に活動内容の共有・改善の機会へとつなげる機運の高まりにつながった。(○) ・児童生徒の活動をよく観察し、良かった点を具体的に褒め、次への意欲へとつなげる様子が見て留れた。(○) ・校内研究授業として、初任者研究授業、10 年目経験者研究授業を校内に周知、実施。研究協議会において、児童生徒の活動量の保障について協議、確認を行った。どの研究協議でも活動量を意識している様子が窺えた(○) ・上記同様にどの授業でも活動量を意識している様子が窺えた(○) ・全校教科会 5 月、6 月、9 月の 3 回実施。教科書採択およびシラバスの内容見直しを図った。 ・教科書運用状況の確認(5 月) ・シラバス運用状況の確認(6・9 月) ・シラバス引継ぎ欄運用済(3 学期)(○) ・小学部 5 年生と中学部 2 年生、小学部 4 年生と中学部 1 年生、小学部 6 年生と中学部 3 年生の交流をそれぞれ実施。(○) ・小学部、学年間での交流を実施。 ・中学部、授業見学実施。 ・12 月に校内体験実習を実施。また、各グループの特活で清掃や校内体験実習に向けた取り組みを実施。2 月にも実施。 ・中 2 では、職業の授業見学、中 3 では、職業の授業見学および実習体験を 1 回ずつ実施。 ・50 周年記念事業「学校きれい大作戦」にて、高等部との交流清掃を小中学部各学年 1 回計 9 回実施。 ・高等部園芸での授業交流を小学部、高等部で 1 回実施。(○)
	オ シラバスをブラッシュアップする ＜カリマネ PT＞ カ 小中学部からのキャリア教育の充実 ＜小中学部 進路指導部＞	オ <u>定期的に見なおしをかけよう！</u> 教科ごとの繋がりを確認すると共に、系統立てた教科書採択を図る カ <u>学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！</u> <u>寝屋川ファミリー（児生版）</u> ・児童生徒の学部間交流を計画・実施する <u>ディスカバー&ビルド！</u> <u>自分だけのキャリア！</u> ・進路選択・実現に向けたキャリア教育の取組みを行い、就労に対する意識を高める <u>つながる進路！ ～学部間連携～</u> ・卒業後の社会参画と自立を見据えた効果的な進路指導を進める	オ カ ・校内実習・就労に向けた取組み 中学部 年 1 回以上 ・高等部との職業に関する授業交流 小中学部 年 1 回	
	(2) 時代にマッチした教育理論を構築する ア カリキュラム・マネジメントを充実させる ＜カリマネ PT＞ イ 効果的な指導支援を研究・推進する ＜行動支援 PT 支援研究部＞ ウ ICT を活用した取組みを推進する ＜情報部 DX 推進 PT＞	(2) ア <u>みんなで作る「カリキュラム・マネジメント」～ 浸透の 2 年目！ ～</u> ・教職員一人ひとりが「カリマネ」を意識して実践すると共に、全校的な運営を行う。 イ <u>一人ひとりの可能性を輝かせる</u> <u>ポジティブな学校！</u> ・のぞましい行動に向けた支援について研修する。 ウ <u>ICT はあくまでツール！活用のその先へ！</u> ICT の使用を目的とするのではなく、活用を通して児童生徒の学びを深める取組みを進める。 <u>あるある TV！みるみるネット！</u> ・教室モニタ設置率を改善し、いつでも ICT を活用した授業展開ができる環境改善を図る	(2) ア ・カリマネ通信の発行 学期 1 回以上 ・研修の実施 年 1 回以上 イ ・行動支援の専門家と協力して学期に 1 回の見立て、年 1 回の研修の実施 ウ ・校長の授業観察時に確認 年 1 回以上 ・校内モニター設置率 8 % 増	・カリマネ通信を 3 号まで発行済(○) ・全校カリマネ研修を各学期に 1 回ずつ実施(○) ・7 月 22 日(月)に大阪教育大学の庭山和貴准教授による「やった！できた！を増やすポジティブ行動支援」をテーマにした研修を実施。 ・大阪教育大学聴講参加(R 6 年度)和歌山県立はまゆう特別支援学校見学実施(7 月)(○) ・ICT を効率よく活用し、学びを深めている様子が見て留める ・ICT 活用実践事例を共有する研修を実施。参加者 33 名。アンケートの結果、肯定的評価 100%。 ・校内の全教員対象にグループウェアの利活用研修を実施。 ・夏休み、冬休みに学年学習支援クラウドサービスへの投稿活動を実施。小学部 4 年生は、生活科と関連づけたテーマで投稿活動を実施。休み明けに投稿内容をもとに振り返りを行った。(○) ・使用頻度の少なかった全校に対して配置していた物を特定のクラス

	エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する<教育環境部 小中学部 生活指導部> オ 人権感覚を育む<人権推進担当 小中学部> カ いじめの未然防止に努める<生活指導部 小中学部> キ 防災・防犯に努める<担当首席 生活指導部> (3) 次世代教職員を育成する ア 人権感覚を高める<小中学部> イ 他学部との取り組みを知る機会を作る<担当首席>	<u>これは私、これはあなた、のタブレット！</u> ・1人1台端末に、個々の授業等の情報をストックし、端末を個別化して活用する <u>児童生徒から情報発信</u> <u>こんな取組みやってまーす！</u> ・児童生徒が情報モラルを学ぶと共に、学校ホームページのブログアップを行う <u>ステキな出会い 図書室から！</u> ・児童生徒が読みたい本を積極的に取り入れ、興味関心が広がる読書教育を推進する。 <u>おめでとう50周年！</u> <u>みんなで創るこれからの歴史！</u> ・50周年記念行事に向け、児童生徒が主体的に取り組める集会開催方法を再構築する <u>おはよう！みんなで作る笑顔の輪！</u> ・学部を越えて児童生徒会が一緒に朝のあいさつ運動を実施する オ <u>高めよう人権感覚！皆違って皆いい！</u> ・人権をテーマにした教育をHRや授業で実施する カ <u>みんなで守ろう、みんなの笑顔！</u> ・「いじめ対策委員会」を学期1回開催、いじめに繋がる事案等の確認を行い、未然防止に努める ・いじめ事案が確認されたら即ち委員会を開催し、組織としての対応を検討する ・『学校いじめ基本防止方針』を改訂、教職員・保護者へ周知する ・「部集会」で各学部生活指導部より、児童生徒に向け、いじめ防止に関する講話の実施 キ <u>みんなが主役！</u> <u>準備万端の舞台裏で守るぞネヤガワ！</u> ・改訂したマニュアルを基に、教員向け訓練 児童生徒向け訓練の双方を実施する (3) ア <u>子どもの人権尊重！</u> <u>広げよう前向きな言葉かけ！</u> ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、ポジティブな言葉かけで行動を促す イ <u>学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！</u> <u>寝屋川ファミリー（教員版）</u> 教職員の学部間交流を計画・実施する	・年度末に活用に関するアンケート実施 肯定的評価 60%以上 ・小学部6年生以上（タブレットが個人に紐づき） ・学年ブログアップ 学期1回 エ ・図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の10%） ・部集会 学期に1回以上 ・あいさつ運動 週1回以上 オ ・小学部 人権学習 学期1回 ・中学部 人権学習週間・学習 年1回 カ ・学校教育の自己診断の保護者評価「いじめについて」60%以上[54%] キ ・防災訓練（地震1回・火災2回・Jアラート1回） ・防犯訓練（教員・児童生徒各1回） (3) ア ・校長の授業観察、部主事等からの聞き取りで確認 年1回以上 イ ・十分な準備のもと、他学部のみドルリーダー等が丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う 年1回	に設備替え 3.3%増。（△） ・5年生以下に紐づけないため、47%にとどまった（△） ・小学部6年生以上の児童生徒に端末を紐づけ。一部の授業グループで個人端末を活用。校内の9つの授業グループが授業で学習支援クラウドサービスを活用。（○） ・学校 HP に、「みんなの学校ブログ」の開設。こどもたち主体で、学校の魅力を発信。現在3学年で試行実施中。投稿数 18。（○） ・昨年度に続き、シールの色分けや図書の整理、全蔵書リストへの入力を行った。 ・本の購入希望を募り、新規図書の購入を行ったが、廃棄がなかったため6%にとどまった（△） ・全学部「部集会」に名称を統一し、予定通り学期に1回実施できている。中高は合同実施にも取り組んだ。（○） ・あいさつ運動は、ほぼ毎日、中高の生徒会役員と自主単独通学生が一緒に取り組むことができた。児童会役員は担任と一緒に取り組むことができた。（○） ・小学部1学期、各学年実施済み。 ・中学部各学年実施済み。（○） ・学期に1回定例「対策委員会」を開催し、いじめアンケートの結果を教職員へ周知した。また、『基本防止方針』を改訂しHP更新、「部集会」で児童生徒への講和、教職員と保護者への周知を実施した。 保護者評価 52%（△） ・防災訓練は、予定通り実施。災害時初期対応シミュレーションを取り入れ、災害時に学年から抜ける教員の確認もできた。（○） ・防犯訓練は、教職員対象に寝屋川警察が4月実施、児童生徒対象に教員が5月実施することができた。また、協力粘着テープにより脚に固定させて点灯させる特殊なさすまたを校内に新しく1本設置した。（○） ・始・終業式で「互いを大切に」「前向き」といったキーワードを用いて講話を行った。聞き取りでは児童生徒もよく見ており、行動変容の一助となったと確認できた。授業観察でも前向きな言葉かけを多く確認できた。（○） ・首席、部主事、希望教員による学部間交流を実施。11回22名（○）
2 保護者・地域・関係機関との連携	(1) 保護者との連携を深める ア 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る<保健室> イ 通学バスの位置情報を提供する<生活指導部> (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア きれいな地域づくりに貢献する<小中学部>	(1) ア <u>相談室へいらっしやい！</u> ・小児科・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する ・できるだけ担任も同席し話を共有する イ <u>安全安心の登下校！</u> <u>バス今どこ？バス今ここ！</u> ・バス会社と連携し、漏れのない位置情報を提供し、保護者のアプリ活用を促進させる (2) ア <u>皆で楽しく、地域がキラキラ、心がぽかぽか</u> ・きれいな地域づくりに貢献し、地域との交流を深める	(1) ア ・学期2回以上の実施 ・1回につき2件以上の相談 イ ・情報提供 バス運行日数×2回以上 (2) ア ・寝屋川公園の清掃活動を実施 小中学部 年1回以上	・1学期は5・6・7月に計3回実施 2学期は9・10月に2回実施、11・12月にも1回ずつ実施 3学期は1・2月に計2回実施 1回につき2～3件の相談あり 保護者、(児童)生徒本人、担任からの相談あり。（○） ・登下校便で1日2回（1便運行がある場合は3回）活用することができた。位置情報が反映されない場合はバスコースへ連絡して対応することができた。（○） (小) 11月に6年が実施。 (中) 寝屋川公園内のごみ拾いを1回実施。（○）

	イ 学校間交流を実施する 　　＜小中学部＞ ウ 居住地校交流を実施する エ 民間委託された給食室との連携を図る 　　＜健康教育部＞ (3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する 　　＜管理職・担当首席＞	イ <u>こんにちは！寝屋川支援学校です</u> ・各学部において、学校間交流を行う ウ <u>こんにちは！この地域に住んでいます</u> ・居住地校交流を実施する エ <u>おいしい給食ありがとう！</u> 　　<u>伝えます！感謝の気持ち</u> ・食缶受け取り・返却時に「いただきます」「ごちそうさま」等の挨拶を励行する (3) ア <u>ペーパーレス化で神（紙）ですか 24！</u> ・メール配信システムやフォーム作成ツールの活用を進め、プリント配付やアンケート回収等についてデジタル化を推進する	イ ・学校間交流実施　年1回以上 ウ ・希望する居住地校交流実施 100% エ ・年度末に教職員アンケートを実施 「挨拶が増えた」肯定的評価 67% (3) ア ・全校配付プリントの配信率 90% ・全校アンケートのデジタル化 90%	（小）11 月に4年生と交野市立星田小学校が実施。 （中）望が丘中学校（中1）、寝屋川三中（中2）、北河内さつきが丘高校（中3）とそれぞれ実施。（○） （小）希望者 12 名全員実施（○） （中）1 名実施（○） ・「食缶受け取り時の挨拶を行っている（小学部除く）」の回答は、1 学期の 31%から 35.7%に上昇した。「下膳時に挨拶をしている」の回答は1 学期の 75.9%から 83.9%に上昇した。「昨年度に比べて挨拶が増えたと感じる」の回答は 69.6%と肯定的評価が目標に達した。（○） ・全校配付プリントの配信率 90% 全校アンケートのデジタル化 90% 学年配付プリントのデジタル化も進んでいる。（○）
3 働き方改革	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる＜管理職＞ イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う＜管理職＞ (2) 教員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を促進する 　　＜教務部＞ イ 分掌長・主事等の業務を軽減する 　　＜学年主任＞ ウ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す 　　＜教育環境部 　　健康教育部＞ エ 個人情報処理業務を削減する 　　＜管理職＞ オ 会議の円滑化・充実を図る 　　＜全校＞ (3) 業務推進体制を整理する ア 首席を学校経営の要として配置する 　　＜管理職＞ イ 校務分掌を整理する＜管理職＞	(1) ア <u>1に健康 2に生活 34 がなくて 5に仕事！</u> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる イ <u>あっ！定時や！か～えろっと！</u> ・会議日程や方法を検討すると共に、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う (2) ア <u>児童生徒・教員・皆のニーズを満たす ICT 活用！</u> イ <u>分掌長さんそれやりますよ</u> ・業務の平準化のため、分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る ウ <u>無駄なく長いお付き合い！</u> ・備品、消耗品、教材の管理を行う <u>・チェックでつなぐ安心安全！</u> 校内安全点検を実施し、教育環境を整える <u>児童生徒・教員・環境にも優しいプール！</u> ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗淨促進剤を活用する エ <u>溶解にして、他の仕事しよう改！</u> ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る オ <u>「こうあるべきだ！」はやめましょう！</u> 　　<u>柔軟に問題解決！</u> ・提案に課題を述べるときは、併せて代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 <u>これ、なんのためにやってるの？</u> 　　<u>「例年通り」はやめましょう！</u> ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。 (3) ア <u>強化します！首席間連携・教頭との連携</u> ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する イ <u>分掌から飛び出す PT！</u> ・分掌と PT の担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを昨年度より下回る〔107〕 イ ・時間外勤務実績昨年度比3%削減 (2) ア ・教材バンクに格納された情報教材数 昨年度比 120% イ ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上 ウ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・50 周年の取組みに関連し、清掃用具を中心とした新機購入・管理 ・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・プール学習開始前に洗淨促進剤を投入 エ ・溶解処理の計画・実施を行う オ ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上 ・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」88%〔83%〕 (3) ア ・総括首席を指名する ・首席を教頭補佐とする ・首席会を実施する ・PT の推進担当とする イ ・首席・分掌長等の面談時に確認	・ストレスチェック総合健康リスク 100 で昨年度を下回った。（○） ・昨年度比 95.7%の時間外勤務 4.3%削減（○） ・R5／87 R6／107 前年比 123%（○） ・分掌業務を考慮して、学年業務の内容を決定した学年もあるが、調整等が難しかった学年もあった。（△） ・教職員ロッカーと靴箱は随時、教材倉庫は学期末毎に整理整頓を行った。（○） ・各教室、特別教室の清掃道具を集約し、使用不可は廃棄した。また、清掃道具数を学部ごとに定め、管理をしやすいようにした。今後は廊下にモップ、ほうき、ちりとりを配置予定。また清掃用具について倉庫の整理等を行った。（○） ・毎月の安全点検と技能職員への補修の依頼を行った。（○） ・5月にマグクリーン SP をプールに投入した。その結果、プールに付着する苔が大幅に減少し、清掃が簡易になり、掃除の負担が減少した。（○） ・1 月末に全校周知し、個人情報関係書類を収集、その後の溶解処理に関して調整済み（○） ・面談時に『『反対のみ』の意見は少なくなってきたように感じるが、更なる浸透が必要』といった声があった（○） ・教職員評価 82%（△） ・評価指数はすべて達成。（○） ・「機動力高く動いているとは考えるが、推進するためにはもう少し人員の調整が必要」との声があった（○）

4 地 域 支 援	(1)地域との連携強化を図る ア 校内外の支援コーディネーターの育成 ＜支援研究部 LS＞ イ 高等学校への支援の実施 ＜支援研究部 LS＞	(1) ア <u>地域の学校と共に学ぼう「支援教育」！</u> ・各市町村と連携し、地域のコーディネーターの育成を図る ・年に5回以上 LS 以外の教員が巡回や研修講師に同行する イ <u>社会へ羽ばたく力を育もう！</u> ・支援教育サポート校と連携し、高等学校（含私学）等への相談支援を進める。	(1) ア ・すべての依頼について、各市の教育委員会と協同で実施 ・同行回数 年5回 イ ・高等学校（含私学）への相談支援・研修等を2回以上、実施する。	 ・大東市・寝屋川市各委員会と協同で実施。（○） ・同行者8名（首席含む）、計5回実施。（○） ・周知等を行うも、高・私学ともに依頼なし（△）
-----------------------	--	--	---	--